

なかま

プリンストン日本語学校新聞



平成25年度 No.15号

平成25年 8月31日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

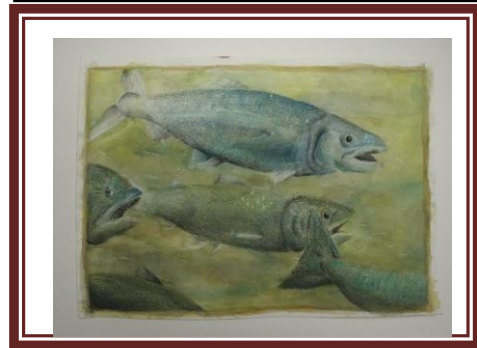
風音は 平原わたる 夏大豆
草の間の 虫オーケストラ 月夜かな

今日の行事

元の校舎で授業開始（土曜日授業です）

今後の行事予定

9月 8日 JASL 入学式 ADULT 秋季授業開始
9月 29日 前期最終日（通知表渡し）
幼稚園親子ピクニック
10月 6日 後期開始 秋祭り
10月 27日 漢字検定



6年
ショー キラ

漢字が好き！（本読みがとても苦手な人へ）

漢字はいくつありますか？ 約 47000 字！
高等学校卒業までに必要な漢字はいくつありますか？ 2000～2500 字！

いくら辞書に何万かの漢字が並んでいても、新聞を読むために必要な漢字はおよそ 2000 字なんです。2000 字はアルファベットの数に比べたら確かに多いですが、見た目でも意味を知ることができるうえに似通った仲間に分けて覚えることもできます。漢字には意味があるために、それを覚えるためのヒントはたくさんあります。2000 字は覚えられない数ではありません。

どの世界でも学ぶためにはそれなりの苦勞があります。それでも、いやだいやだと思いがら学ぶのと、一つ一つ覚えられて楽しいなと思いがら学ぶのでは、結果に大きな違いがでてくることは避けられません。新聞を自由に読める日を夢見て、欲張らずに少しずつ、私は漢字が好き、これだけ読めるのだと、自信を持って学んでいきましょう。かっこいい漢字の使い手になりましょう。

漢字検定はそのきっかけを作ってくれます。

「祖母の言葉」

小野雅之

私はプリンストン日本語学校の理事ですが、本業は PPPL と略されているプリンストン大学プラズマ物理研究所で核融合を研究している物理学者です。核融合は人類の将来のエネルギーとして期待されています。プラズマ物理研究所は 1951 年に世界で最初の核融合研究所としてプリンストン大学に誕生しました。私も 1951 年生まれなので、不思議な縁の様なものを感じます。

私は 14 歳の時にアメリカに渡って来たので、日本語学校の生徒さんには私と共通した所があるかもしれませんが、日本で中学 2 年まで英語の勉強をしてきましたが、いざアメリカに来てみると英語が全く理解できませんでした。私が言うことも相手に理解されませんでした。今までの環境が全く変わりこれからうまくやって行けるか不安になる時もありました。そんな時に思い出されたのは、私の祖母がよく言っていた言葉でした。私の祖母は第二次世界大戦前に一時アメリカに渡り生活をしていましたが、その後夫を残して子どもたちをつれて一人で日本に帰って来ました。帰国後漢方の針治療で成功し自分で病院を建てた人ですが、私が今思うとすごい頑張り屋だったと思います。私が小学校の低学年の頃、その祖母が「若い頃の苦勞は買ってでもしなさい」とよく言っていました。私はまだ小さかったのでただ聞いていただけですが、その言葉が心の中に生き続けその後の私の人生にとっても役に立ってくれました。

「若い頃の苦勞は買ってでもしなさい」という言葉は、私たちが成長する過程で経験する色々な困難や苦勞が実は将来とても役に立つということです。又今振り返ってみると、その言葉は私たち人間一人一人に秘められている大きな可能性も示しています。私たちの体や脳は使うことによって更に鍛えられ向上していきます。機械のように使っていると摩耗などして壊れてしまうものではなく、使うことによって更に良くなる、実に素晴らしいものなのです。これは私たちが努力すれば生まれつき能力を持っている人にも追いつき追い越すことが出来るということにつながります。知識や経験はお金と違い、使うことで更に増えていきます。又物と違って、身に付けた知識や経験は全て私たちがいつでも使える様にそばにいてくれます。誰かが持って行ってしまう心配もありません。ですから、今面倒だとか大変だとか思うことでも、チャレンジすることによって色々なことが達成できるのです。今日、日本語学校の皆さんに「皆さんはほぼ無限の可能性を持っていますから、苦勞や困難を恐れず決して諦めないで夢に向かってチャレンジして行って下さい」というメッセージを伝えたいと思います。（プリンストンプラズマ物理研究所主任研究員）